

みんなでつくる美術館 2025年度記録集

2025

やまなしをつくらう

Vol.3

み	な	び				
み	ん	な	で	つ	く	る
び	じ	ゅ	つ	か	ん	



つながる
ひろがる
うまれる



種をまく 世界がひらく

山梨県立美術館

Yamanashi Prefectural Museum of Art



ごあいさつ

「みんなでつくる美術館(みなび)」とは、大人も子どもも、障がいのある人もない人も、アーティストも一般の人も、誰もが自由に参加し、楽しみながらつくり上げていく取り組みです。24回目となる今年度は、プレワークショップを含め展覧会前に計8回のワークショップを行い、そこで生まれた作品を「みなび展」の中で展示しました。会期中にもワークショップにつながる内容のイベントを2回実施しました。

この3年間、「やまなしをつくろう」という大きなテーマのもと活動を続けてきましたが、今年度はその最終年として、山梨に暮らす人と人とのつながり、人と地域との関わりへと視点を広げました。年間テーマを「つながる・ひろがる・うまれる」とし、地域の伝承や方言、甲府盆地を囲む山々とのつながり、人と人、人と人形の関係性など、「人」を軸に多様な表現が生まれました。

みなび展では、こうした作品を会場いっぱいに表示し、幅広い世代の多くの方にご覧いただきました。山梨という地域のおもしろさや、ここに暮らす人どうしのつながりについて、改めて思いを巡らせる機会になったのではないかと思います。本記録集では、各ワークショップと、みなび展の様子をご紹介します。

「やまなしをつくろう」というテーマのもと、1年目は自然や動物、2年目は手仕事や地域の素材、そして3年目は人と、年ごとに注目するポイントを変えながら活動してきました。この3年間のみなびの歩み自体が、人と人とのつながりに支えられ、多彩な作品、表現を生み出してきたとも言えます。山梨という地域、その特色やそこに暮らす人々について考えたこの3年間は、地域に根ざして活動する美術館にとって大きな意味をもつものでした。

そして、次のみなびはどのように展開していくのか。山梨県立美術館は2028(令和10)年に開館50周年を迎えます。これからも地域の皆さんとともに歩みながら、新たなみなびをつくっていかねばと願っています。

みんなでつくる美術館実行委員会
委員長 青柳 正規(山梨県立美術館 館長)

1 MINABI workshop だいだらぼっちを描こう!

講師/柏原 恵美氏[作家]

実施日/7月27日(日) 午前10:00~11:30 午後1:30~3:00

場所/山梨県立美術館

参加者/午前 26名 午後 32名

ボランティア/午前 5名 午後 6名

山に囲まれた山梨県、
その山に住むという巨人だいだらぼっち。
紙の真ん中に寝そべった人をだいだらぼっちに
見立ててみんなで描きました。



画用紙の上に寝転んだ人を囲んで、それぞれの場所から見える人の部分を画用紙に隙間なくぎっしり描いていきます。足を描くひと、後頭部を描くひと、横顔を描くひと、、、それぞれの視点を画用紙いっぱいに繋げていったらどんな画面が出来上がるのでしょうか。じっと動かず寝転がっていた人が起き上がった瞬間は、まるで伝説の巨人だいだらぼっちが現れたようでした!

(柏原 恵美)

2 藍の葉っぱのたたき染めを 楽しもう

講師／美術館職員
実施日／8月1日(金) 午前9:30～
場所／山梨県立美術館 ミュージアムコート
参加者／67名
ボランティア／21名

4月に参加者に藍の種を配布、
育ててもらった葉を持参してもらい、
たたき染めをしました。
緑の葉の色素が、水で流すと藍色に!



3 目でみる甲州弁 ちょびちょび・わにわに・ ごっちょでございす

講師／^{ごっちょがわ つっぺえた}五緒川 津平太氏[「キャン・ユースピーク甲州弁?」著者]
実施日／8月30日(土) 午前10:00～11:30 午後1:30～3:00
場所／南アルプス市立美術館
参加者／午前 18名 午後 16名
ボランティア／午前 5名 午後 6名

五緒川津平太氏セレクトの甲州弁の言葉を
組み合わせ、文章をつくって、
それを絵にしました。
慣れない言葉にみなさん悪戦苦闘!



甲州弁を知らない人はどうするのかなと心配していましたが、語感から想像して自分なりのストーリーをひねり出して絵にしてくれました。「ほくはれえ」がきれいな風景の絵になりびっくりしました。甲州弁を知っている人でも、へんてこな言葉の組み合わせに笑いながら不思議な世界を絵にしてくれました。知っている人には懐かしく、知らない人には謎の言葉の甲州弁ですが、それぞれ違う楽しみ方ができていたのではないかと思います。
(五緒川 津平太)

4 今日だけは 出会ったことの無い誰かに

講師／飯島 大地氏[作家]

実施日／9月13日(土) 午前10:00～11:30 午後1:30～3:00

場所／山梨県立美術館

参加者／午前 20名 午後 18名

ボランティア／午前 6名 午後 6名

いつもと違う人の名前や性格を考え、
その人のコスチュームをつくって、
お互いに自己紹介しました。
なりたい自分になれたかな？



本名から離れて新しい名前と仕事を考え、衣装を制作するワークショップを行いました。名前を人物像として捉えた参加者は具体的なファッションや職業像を組み合わせ、性格や感情として捉えた参加者は色や抽象的な形で表現するなど、解釈の違いがそのまま作品のかたちに表れました。その変化を同じ空間で共有できたことが大きな喜びでした。(飯島 大地)

5 パペットのともだちをつくろう！ ——みて、つくって、動かそう

講師／矢崎 育子氏[パペットセラピスト]

実施日／10月9日(木) 午前10:00～11:30 午後1:30～3:00

場所／山梨県立美術館

参加者／午前 23名 午後 25名

ボランティア／午前 7名 午後 9名

ミトンや靴下でパペットをつくり、動かして遊びました。
最後には参加者が集合してみんなでパペットを手に
合唱しました。



このワークショップは、誰でも参加してできる場として、10月に実施しました。靴下や鍋つかみや布等から自分で材料を選んで工夫してパペットを制作しました。皆さんそれぞれ違った可愛いパペットを作り上げ、動かして遊んだり話しかけたりしてとても楽しそうな一時間半でした。みなび展の最終日2月1日(日)午前中は、18名の参加で鍋つかみパペットをつくり、午後からの発表には、10月の参加者や観客が集まって80名近くになり、生伴奏付きで歌ったり踊ったりして温かい発表や交流となりました。(矢崎 育子)

6 じかんのつみき

講師／原田 裕規氏[アーティスト]
 実施日／11月3日(月・祝) 午前10:00～午後3:30
 場所／山梨県立美術館
 参加者／22名
 ボランティア／14名



当館所蔵の風景画を大きな紙に投影し、参加者がパーツごとになぞり、立体的に制作しました。それらをあわせ、一つの大きな風景をつくり上げました。



自分にとっては初めてのワークショップでした。自分が風景画を通して見ているものをシェアしたい—そんな想いで始めたはいいものの、そのためには、それなりに複雑な工程が必要なのことがわかりました。実現できるだろうかと不安を感じていましたが、やる気いっぱいの参加者の皆さま、そして経験豊富な美術館の皆さまに支えられて、素敵な風景が立ち上がりました。皆さま、どうもありがとうございました!素敵な風景と一緒に眺めることができ嬉しかったです。(原田 裕規)

7 県立美術館展望台

講師／長谷川 創氏[作家]
 実施日／11月29日(土) 午後1:00～4:00
 場所／山梨県立美術館
 参加者／17名
 ボランティア／9名



美術館に展望台があって、甲府盆地を囲む山々を見渡せたら…山々のかたちを自分の体で再現、それを写した紙に各自絵を描きました。



甲府盆地は360度を山に囲まれた国内でも稀な地形ですが、市内にはその山並みを一望できる展望台がありません。そこで「美術館に展望台をつくろう」という発想から、展望台から眺めた山の景色を作品として再現しました。今年のテーマに即し、山に見立てた「人」の写真をつなげ、輪のように広げることで、新たな山脈を生み出しています。ワークショップでは山のポーズで撮影し写真に彩色するなど、普段と違う制作を参加者のみなさんが楽しむ姿が印象的でした。(長谷川 創)

みなび展



⑥じかんのつみき



③目でみる甲州弁



①だいだらぼっちを描こう!



⑦県立美術館展望台



③目でみる甲州弁/つながる似顔絵



みなび展



⑤パペットの友達をつくらう!



②藍の葉っぱのたたく染めを楽しもう



つながる似顔絵

会期/2026年1月22日(木)~2月1日(日)
午前9時~午後5時 最終日午後3時まで
休館日1月26日(月)
会場/山梨県立美術館 県民ギャラリーC、他
観覧者数/10,341人



④今日だけは出会ったことの無い誰かに

※番号は各ワークショップの番号に対応しています。

みなび展前と会場での
mini workshop

つながる似顔絵

実施日／7月19日(土)～9月30日(火)
1月27日(火)～2月1日(日)

場 所／ギャラリー・エコー、みなび展会場
参加者／約3,000名

大好きな人の顔を思い出して、似ている輪郭を探し、似顔絵を描きました。離れて暮らしている人と絵の中で隣に並んでみたり、モデルとなった人に「ここに描いたよー!」って連絡して見に来てもらったり。2,445(9月30日時点)の似顔絵が繋がりました。



みなび展会場での
mini workshop

富士山をかこう!

みなび展会期中、会場内で随時制作可能とし、完成した絵は参加者が自分で展示場所に貼りつけました。
参加枚数／774枚



今年度のみなび展でも、当館所蔵のミレーやバルビゾン派の作品にちなんだ内容の特製「おみくじ」をお客様に楽しんでいただきました。

みなび展会期中イベント

五緒川津平太氏による 紙芝居「甲州弁シンデレラ」読み聞かせ

実施日／1月31日(土) 午後2時～
場 所／みなび展会場
(県民ギャラリーB)

五緒川氏による「甲州弁シンデレラ」の読み聞かせのほか、さまざまな場面での甲州弁の使い方講座や甲州弁クイズなど、たくさんの甲州弁に触れる機会になりました。



矢崎育子さんと 一緒にパペットを作ろう!

実施日／2月1日(日)
午前11時30分～
場 所／ワークショップ室



パペットステージ

実施日／2月1日(日) 午後2時～
場 所／みなび展会場(県民ギャラリーB)

パペットを作った後、10月のワークショップ参加者と一緒にステージで歌や踊りを発表しました。



アンケートから



ワークショップ参加者とみなび展をご覧いただいた皆さまからたくさんの言葉をいただきました。その中からごく一部をご紹介します(原文のまま)。

① だいらぼっちを描こう!

- 皆で作品を作る!!良いですね～ 絵をかいているうちにいつのまにか仲良くなったりと、楽しかったです。(大人)
- ふだん大きな絵はかいたことがなかったので、ここでたくさんかけてよかったです。(小学4年生)

② 藍の葉っぱのたたき染めを楽しもう

- とんかちでたたくところやあいの葉で色がつけられるのがびっくりした。だからとてもまんぞくした。(小学4年生)
- タネまきからはじめてたたき染めまでできて楽しかったです。手を動かす楽しさを味わえました。ありがとうございます。(大人)

③ 目でみる甲州弁

- 探究活動の一環で来ました。私達は若者の甲州弁のイメージを好印象に帰るために活動しています。今回のワークショップに参加して、楽しく甲州弁に触れることができ、多くの人も交流できて楽しかったです。活動にいかします。(高校生)
- 知らない甲州弁をどんな意味なのか考えるのが楽しかったです。また同じイベントがあったら参加したいです。(大人)

④ 今日だけは出会ったことの無い誰かに

- 絶対にはなることができない仕事を考えてみましたが、ドキドキわくわくがすごかったです。他の方々のお話もたのしくて、子どもとは別々であっても新鮮な気持ちで参加できました。(大人)
- ちがうじぶんになれてすごかったのしかった。いろんなざいりょうでかんがえてつくるのもたのしかったです!!(小学1年生)

⑤ パペットのともだちをつくらう!

- 子供達とパペットで遊んで楽しかったです。パペットの力はすごいと改めて思いました。(大人)
- 誰一人同じものがなくステキだなと思いました。ありがとうございました。(大人)
- 子どものために参加しましたが、大人もやらせていただき思いのほか親子で別々に作ったのが一緒に楽しめてとても良かったです。ありがとうございました。(大人)

⑥ じかんのつみき

- お友達を誘って長い時間一緒に制作したことがとても良い体験だったと思います。1枚の絵の中に、それぞれの時間があることがとてもステキに思えて、もっと描くことを楽しくできるようになったと思います。(大人)
- 実際に描くことによって画家の絵のみかたが変わったのではないかと感じました。(高校生)
- 絵の中に入り込む 出る 感じる 最高。(大人)

⑦ 県立美術館展望台

- 突拍子もないテーマのように感じましたが、自分と山をコラボ、デジタルとアナログの融合、山梨の地形をえがくダイナミックさ、疲れましたが、楽しめました。風景のような自画像のような不思議な体験!(大人)
- とにかく楽しかったです。山梨県の山のことをあまり知る(考える)きかいがないのでおもしろかったです。母と絵をかくきかいがないのでとても楽しかったです。スタッフのみなさん協力してくれてありがとうございました。おかげで楽しくできました。(小学生)

みなび展

- 7回すべてさんかしたけれども、見るとやっぱりすごいと思いました。自分が作ったパペットが入り口にあってうれしかったです。(小学4年生)
- 地域に根差した美術館としてとても良い取り組みだと思った。(大人)
- みなび展、初めて知りました。流れていたBGMの歌詞、まさにその通りだなと思って、作品をみさせていただきます。子供も大人も笑顔になりますね。(大人)
- 「どんな人でも参加することができる」ところがすごいと思いました。また参加したいです。(大人)
- 元気な山梨 楽しい山梨 大切な山梨 皆さんの思い知れてよかったです。(大人)

ミニワークショップ・つながる似顔絵

- 似顔絵をかいて、笑顔あふれる山梨をつくれました。(小学6年生)

- 顔のりんかくに顔をかくのがおもしろかった。(大人)

ミニワークショップ・富士山をかこう

- ふじさんをかくのがたのしかった。(小学1年生)
- 富士山の絵をかけて思い出になりました。(大人)

あとがき

みなびはコロナ禍を経て「やまなしをつくろう」というテーマのもと再集結しました。3年間にわたる活動を通して、自然や生き物、山梨の手仕事、地域と人・つながりと、日常の身の回りのことに目を向け改めて考えることや、新たな発見をすることができた有意義な機会となりました。

各ワークショップの作品が集まったみなび展は、表現をすることの楽しさが作品を通して伝わる、参加者全員のエネルギーに満ち溢れた特別な空間だったと思います。

みんなでつくる美術館実行委員 齊藤翔 (作家)

2025年 みなび実行委員/後援/協力

実行委員長	青柳 正規	(山梨県立美術館館長)
副実行委員長	市川 知都理	(南アルプス市立美術館職員)
実行委員	柏原 恵美	(作家・専門学校教諭)
実行委員	木村 理香	(山梨県立美術館協力員)
実行委員	齊藤 翔	(作家)
実行委員	村岡 由季子	(作家)
実行委員	長谷川 創	(作家)
監事	島津 久美子	(山梨県立美術館協力員)
監事	山口 博	(芸術の森みらいデザイン支配人)
事務局長	井澤 英理子	(山梨県立美術館学芸幹)
事務局	太田 智子	(山梨県立美術館普及リーダー)
事務局	内藤 雅士	(山梨県立美術館普及担当)
事務局	遠藤 和香	(山梨県立美術館普及担当)
事務局	雨宮 千鶴	(山梨県立美術館普及担当)

主催: みんなでつくる美術館実行委員会・山梨県立美術館

後援: 山梨県造形教育研究会 山梨県社会福祉協議会 NHK甲府放送局 山梨日日新聞社・山梨放送 テレビ山梨 テレビ朝日甲府支局 朝日新聞甲府総局 毎日新聞甲府支局 読売新聞甲府支局 産経新聞甲府支局 山梨新報社 日本ネットワークサービス エフエム富士 エフエム甲府 エフエム八ヶ岳

協力: 南アルプス市立美術館 総合画材べさん堂 日本通運山梨支店 ディスプレイ遠藤 シマトミ企画
指定管理者: 芸術の森みらいデザイン

みんなでつくる美術館実行委員会

400-0065 甲府市貫川1-4-27 山梨県立美術館学芸課内
TEL:055-228-3258 FAX:055-228-3418

みんなでつくる美術館2025年度記録集

写真: みんなでつくる美術館実行委員会事務局、アオヤギフォトスタジオ
編集: みんなでつくる美術館実行委員会事務局
発行: みんなでつくる美術館実行委員会 ©2025
印刷: (株)シマトミ企画



みなび
Instagram



みなび
WEB サイト



種をまく 世界がひらく

山梨県立美術館

Yamanashi Prefectural Museum of Art